

新市立島田市民病院
建設基本計画

平成27年10月

島田市

はじめに

新市立島田市民病院建設基本計画の策定にあたって



このたび、新病院の建設基本計画をとりまとめました。この計画は、昨年度策定した「基本構想」を基に病床規模や医療機能を絞り込み、病床機能と病床数、建物の規模と配置、概算事業費など、整備方針とその概要を定めたものです。

この基本計画は、耐震性の問題や施設設備の老朽化など、現在の市民病院が抱える課題を解決する新病院を早期に建設し、将来を見据えた市民の皆様の命と健康を守る安心の砦を築くというものです。そして、この思いは基本計画の中に一貫して盛り込むことができたと考えております。

現在、国は社会保障・税一体改革を推し進めております。これは、団塊の世代が後期高齢者となる2025（平成37）年に向け、増加する医療需要と社会保障費に対応しようとするものです。また、県が取りまとめようとしている「地域医療構想」につきましても、限られた医療資源を有効に活用するため、二次保健医療圏単位で病床の機能を分化し、患者様を容態にあった病院に受け入れることで、効果的かつ効率的に医療資源を投入していこうとする考えが基本となっております。

新病院の建設にあたっては、こうした国・県の施策の方向性や二次保健医療圏内の病院や診療所間の機能分担・役割分担を踏まえて進めていく必要があります。

新病院には療養病床と精神病床は整備しないことといたしました。このことについては、今後、行政が責任を持ってこれに代わる機能の確保に努めてまいります。

この計画には、医師や看護師など様々な病院スタッフが、日々の患者との対応の中で培った経験を生かし、患者様の利便性、効率的な治療スペースの確保、医療スタッフの働き易さなどといった「医療人」としての観点が加えられております。「医療を中心に考える」、そのことが質の高い、心のこもった医療の実践へとつながり、結果として患者様にとっても満足のいく、信頼される病院を築いていくことになるかと考えております。

建設費を少しでも縮減していくという大きな課題はありますが、多くの皆様に支持され愛される病院となるよう、今後も建設への歩みを着実に進めてまいりますので、引き続きご理解とご支援を賜りますようお願いいたします。

平成27年10月

島田市長 染谷 絹代

病院事業管理者あいさつ



市立島田市民病院の新病院建設基本計画がまとまりました。現在地に移転してから36年が経過しましたが、この間、病院には新耐震基準を満たしてない建物があること（災害時に災害拠点病院として十分な対応ができないことになりかねません）、上下水用管の腐食進行に伴う比較的規模の大きい漏水事故発生、狭あい化に伴う利便性低下など様々な課題が出てまいりました。これらに対応するため、新病院建設を決めました。

新病院の建設場所に関して紆余曲折がありました。現地建替えとなりました。確かに地盤に問題がありますが、当院（硬い地層は地下30数m）よりもっと地盤の状況が悪い（地下70m）石巻赤十字病院は、地下23mまでの摩擦杭と免震装置によるパイルド・ラフト工法（柔らかい地盤の浮力を利用）により、東日本大震災をほぼ無傷で克服しました。工法は進歩しており、地盤へは対応できると考えております。

東日本大震災復興や東京オリンピックによる建設需要増により、建設費が高騰している状況の中、島田市の重点プロジェクトとして全面的支援をいただけることになりました。

団塊の世代が後期高齢者となる2025年へ向けて、医療費増加の抑制を図る国は、病床数の削減、病床の機能転換を誘導しており、医療・介護を取り巻く環境は大きく変化しつつあります。このような中、新病院建設の計画を進めていくことは容易ではありませんが、変化への対応を怠らないよう注意してまいります。

新病院の計画作成には、院内の若手職員が多数参加しております。新病院に長く勤めることになる若手にこそ頑張ってもらいたいからです。受診しやすい、快適に入院できる、災害にも強い病院を目指して、職員一同これからも邁進してまいります。

平成27年10月

病院事業管理者 服部隆一

目 次

序章 基本計画について	1
1 基本計画策定の主旨と位置付け	1
2 新病院開院までの流れ	1
第1章 周辺環境と本院の状況	3
1 医療政策	3
2 本院の周辺環境	7
3 本院の状況	22
4 本院に係る基本分析・主な課題	50
5 新病院建替えの必要性	55
第2章 全体計画	57
1 新病院の理念と基本方針	57
2 重点機能	57
3 新病院の医療体制	58
4 外来診療機能	59
5 病床機能及び病床規模	60
第3章 建設計画	65
1 新病院整備方針	65
2 敷地概要	67
3 既存施設の利用検討	67
4 構造・設備方針	72
5 新病院建物概要	74
6 建替え手順案	78
7 整備手法（発注方式）	79
8 病院整備スケジュール	80
第4章 部門計画	81
1 外来部門	81
2 救急部門（救急センター）	83
3 健診部門（健診センター）	85
4 人工透析部門	86
5 地域サービス部門	87
6 病棟部門	89
7 薬剤部門	91
8 リハビリテーション部門	93
9 栄養部門	94
10 中央手術部門	95
11 中央材料部門	97

1 2 臨床工学部門	98
1 3 診療放射線部門	99
1 4 内視鏡部門	102
1 5 臨床検査部門	103
1 6 医事部門	106
1 7 管理運営部門	107
1 8 企画部門	108
1 9 経理部門	108
2 0 物流部門	109
2 1 施設管理部門	109
2 2 医療情報部門	110
2 3 共用部門	111
第5章 医療機器導入計画	113
1 基本方針	113
2 主要医療機器整備について	113
第6章 医療情報システム導入計画	115
1 基本方針（システム導入の考え方）	115
2 新病院開設時のシステム概念・体系	116
3 導入スケジュール	117
第7章 物流管理システム計画	119
1 基本方針	119
2 物流管理システム構築の考え方	119
3 動線計画	119
4 今後の検討内容	120
第8章 人員計画	121
1 基本方針	121
2 計画にあたっての考え方	121
3 人員計画	121
4 内訳	122
第9章 駐車場整備計画	125
1 目標整備台数	125
2 病院建設に伴う駐車場対策	126
第10章 事業収支計画	129
1 概算事業費	129
2 事業収支シミュレーション	130
用語の説明	133